

市独自にできるところから

支援員の増員・給食費の一部無償等を要望

越教組ニュース

越谷市教職員組合



十一月二九日(月)、越教組は市教委と教育予算に関する話し合いを持ちました。今年度は、未配置未補充問題、多子家庭への給食費の補助問題、50人以上の職場や3学園に関わる学校での働き方などの問題を重点として要望しました。

定数増での少人数数学級を

(市教委) 来年度小5で35人学級が可能である旨の通知が県からあった。越谷市でも、実施していく方向である。但し、従来通り教科指導充実加配を活用しての実施となる。新たな加配について機会あることに要望していく。

(組合) 少人数学級が進むのはうれしいが、未配置・未補充がこれだけ多いと、安心して仕事に専念できない。抜本的改善を求める。



多子家庭に給食費の補助を

(市教委) 就学援助、生活保護などで、適切に支援していく。物価高騰の折、給食費をあげなくて済むよう12月議会に提案した。

(組合) 物価が上がると実質買えるものが少なくなっている上、コロナ対応で必要なものが増え、保護者負担が増えている。春日部市は第3子から無償になっている。

ほしい。名古屋市では、コロナ禍での家庭の収入減で認定基準の見直しを図り、多くの家庭が該当になり喜ばれていると聞く。できることから、少しでも一歩でも、検討してほしい。

(市教委) 当面、物価上昇分を市が補填し、保護者負担が増えないよう対応していきたい。

体育館にエアコンを

(市教委) 最近の異常気象により、体育館の避難所としての役割が見直されてきた。今後、市内すべての学校の体育館エアコン設置に向け、早期の実現・完了をめざしていく。特別教室については、今後大規模改修



の際に設置に努めていきたい。来年度から工事を始める予定である。

未配置・未補充問題 支援員の大幅増を

(組合) A小では、昨年度3名の加配が今年度は2名に減らされ、その2名とも配置されなかった。小4のクラス増への対応もあり、スタートから大変だった。さらに4月に病休者が出たが代替が来ず、コロナでの休みが出たときなど対応が大変。9月に加配が一人入り、非常に助かった。4月からの配置を切にお願

(組合) B小ではスタートから病休が一人。4月途中から産休者が一人。その後途中退職が出て、しばらく3名の欠員のままだった。教務主任が担任を兼務してのいた。2学期途中から臨探が2名来たが、経験が少なくすぐの担任は厳しい状況だ。県への要望だけでなく、市独自の対策を取ってほしい。

(組合) 市独自にできることとして特別教育支援員の配置がある。授業はできないが現場は助かっている。大幅な増員をお願いしたい。

(市教委) 代員が配置されないことや加配が入らないことなどはあってはならないこと。機会あることに県に要望していく。市教委として市に対して増員を強く要望していく。

五〇人以上は法に基づいた整備を

(市教委) 越谷市では、10人以上50人未満の学校では2名の衛生推進者を、50人以上の学校には1名の衛生管理者と産業医を配置することとしている。現在50人以上の学校は、大相模小・川柳小・西方小・明正小・蒲生小・中央中・北中・富士中・栄進中・大相模中の10校。すべての学校から衛生管理者の報告を受けている。また、市教委が産業医の選任を行っている。

(組合) 50人以上の職場では、衛生管理者が週一回、産業医が月一回巡視することになっている。また、衛生委員会は月一回の開催が義務付けられている。これは、きちんと実施されているのか。50人以上の職場が増えた今、衛生管理者には、有資格者になってもらうなど越谷市の今の規定を見直し、ひいては働き方の見直しをする時期に来ている。

働き方改革は基本方針に基づいて

(組合) 3学園構想に関わる学校は特別の準備が必要で大変だ。蒲生小や川柳小は、多くの研究授業や長時間勤務になっている。これは市教委自身が作った働き方改革に反している。市教委が実態をつかみ、指導してほしい。また、陸上天会

も感動の共有など、教育的意義を言うが時代遅れである。これを建前に実施を支援していくというなら、働き方改革など進まない。

(市教委) 研究授業や公開授業は、各学校で計画され

ている。学年分担任などで多くなっているかどうか確認したい。陸上天会についてはコロナ禍での大会の運営方法並びに内容について小体連に検討を依頼している。

この記事は、市教委も確認したのになっていきます。